

〔鶉衣前篇拾遺〕百魚譜

かながしらといふ名のめでたくてぞ産屋の祝儀にはつかはれ侍るさるを石持といふもの、
銀かね持ともいはゞ世にいかばかりもてなされむを益なき名をもちて口をしとや思ふらん

〔和漢三才圖會四十九〕古伊知魚 正字未詳

按古伊知狀似鮠而鱗巨於鮠口長於鮠又似烏頰魚スミヤキタイ大五六寸至尺餘秋月出焉肉白脆味不佳最下品也

キスコ

〔書言字考節用集五〕鱠キ殘魚博物志吳王闔閭江行食魚鱠棄其王餘魚同上

〔物類稱呼二〕幾須古きす 關西にきす 江戶にてきすと云伊勢の白子にてあめ魚と云
雨ふる日多くとも別也紀州にてだうほうと云

〔和漢三才圖會四十九〕幾須吾 正字未詳 其大者名古豆乃 紀州名之道保其名義正字未詳

〔本朝食鑑八〕幾須子魚

釋名古來未聞此魚名故以俗稱記之

集解處處江海四時俱有之形略類鯽魚而色白頭稍短類波絮而鱗太頭尖大者不過八九寸許細鱗而尾無岐肉潔白淡甘可愛作膾爲勝魚餅炙食亦佳頭中有三白石如錢頭石而小最瑩潔也自江上河者曰河幾須狀薄小而不圓色亦帶碧也在江海者曰海幾須狀圓大而肥色最白也漁人以蛤蜊及鰕爲餌釣之或舉網采之江都之芝濱品川中川七八月際官客市人泛畫船張水嬉而爭釣之最爲武江之勝遊房總海濱多采之最大駿相海上及諸州所在有之一種狀圓肥大有黑白虎斑者曰虎幾須味亦美也

氣味甘平無毒主治開胃進食多食無害百病俱無禁忌以生乾者尤爲無毒也